

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成24年5月17日(2012.5.17)

【公表番号】特表2011-515490(P2011-515490A)

【公表日】平成23年5月19日(2011.5.19)

【年通号数】公開・登録公報2011-020

【出願番号】特願2011-502032(P2011-502032)

【国際特許分類】

A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/04	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/39	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/08	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 P	31/16	(2006.01)
A 6 1 K	39/145	(2006.01)
A 6 1 K	39/29	(2006.01)
A 6 1 P	31/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/16	(2006.01)
A 6 1 K	39/085	(2006.01)
A 6 1 P	35/04	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)
A 6 1 K	39/12	(2006.01)
A 6 1 K	39/04	(2006.01)
A 6 1 K	39/21	(2006.01)
A 6 1 K	39/245	(2006.01)
A 6 1 P	31/10	(2006.01)
A 6 1 P	31/18	(2006.01)
A 6 1 P	31/22	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	39/00	G
A 6 1 P	37/04	
A 6 1 P	43/00	1 7 1
A 6 1 K	39/39	
A 6 1 P	37/06	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	37/08	
A 6 1 P	29/00	
A 6 1 P	31/04	
A 6 1 P	31/16	
A 6 1 K	39/145	
A 6 1 K	39/29	
A 6 1 P	31/00	
A 6 1 P	1/16	
A 6 1 K	39/085	
A 6 1 P	35/04	

A 6 1 P 31/12
A 6 1 K 39/12
A 6 1 K 39/04
A 6 1 K 39/21
A 6 1 K 39/245
A 6 1 P 31/10
A 6 1 P 31/18
A 6 1 P 31/22

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月22日(2012.3.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

治療有効量のカチオン性脂質DNA複合体(CLCD)を哺乳類、魚類または鳥類に投与し；

治療有効量のアジュバント含有またはアジュバント非含有ワクチンを哺乳類、魚類または鳥類に投与する；

ことを含む哺乳類、魚類または鳥類における免疫応答を誘発するための方法であって、該LCDは静脈内、腹腔内、吸入または卵内経路を介して投与され；

該ワクチンは静脈内、皮下、筋肉内、鼻腔内または卵内経路を介して投与され；そして該ワクチンは該LCD投与と同時または投与後0-7日に投与される方法。

【請求項2】

該治療有効量のLCDの投与は静脈内経路を介してであり；

該治療有効量のアジュバント含有またはアジュバント非含有ワクチンの投与は筋肉内または皮下経路を介してであり；そして

該投与は哺乳類へである、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

免疫応答を刺激することにより、疾患状態を有する哺乳類、魚類または鳥類を処置する方法であって、該免疫応答が以下により刺激されるものであり；

治療有効量のカチオン性脂質DNA複合体(CLCD)を哺乳類、魚類または鳥類に投与し；

治療有効量のアジュバント含有またはアジュバント非含有ワクチンを哺乳類、魚類または鳥類に投与すること；

該LCDは静脈内、腹腔内、吸入または卵内経路を介して投与され；そして

該ワクチンは静脈内、皮下、筋肉内、鼻腔内または卵内経路を介して投与され、そして、該ワクチンは該カチオン性脂質DNA複合体(CLCD)と同時、または該カチオン性脂質DNA複合体(CLCD)後0-7日に投与される方法。

【請求項4】

該ワクチンが自己免疫疾患、癌、アレルギー性炎症、感染病、原発性肺癌、転移性肺疾患、アレルギー性喘息またはウイルス疾患の処置のために投与される、請求項1、請求項2または請求項3に記載の方法。

【請求項5】

該ワクチンが不活化インフルエンザA型ウイルス、不活化三価インフルエンザワクチン、スプリットインフルエンザワクチン、グリコシル化タンパク質、B型肝炎ワクチンまたはリポ多糖を含む、請求項1、請求項2または請求項3に記載の方法。

【請求項 6】

該アジュバント含有ワクチンがカチオン性脂質DNA複合体(CLCD)、ミヨウバン、モノホスホリルリピドA(MPL)、QS21またはCpGオリゴヌクレオチド(CPG-ODN)からなる群から選択される1種以上のアジュバントを含む、請求項1、請求項2または請求項3に記載の方法。

【請求項 7】

該不活化インフルエンザウイルスがHK×31であるか；または該グリコシル化タンパク質ワクチンがメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)であるか、または該グリコシル化タンパク質がA1s3p-Nタンパク質であるか；または該スプリットインフルエンザワクチンがH5N1スプリットワクチンであるか；または該リポ多糖がフランシセラ(Francisella)多糖類またはフランシセラツラレミア(tularemia)LVS多糖類である、請求項5に記載の方法。

【請求項 8】

該ワクチンが、所望によりLCDおよびミヨウバンを有するアジュバント含有である、B型肝炎表面抗原を含む、請求項5に記載の方法。

【請求項 9】

免疫応答が増強された抗原特異的な免疫応答である、請求項1、請求項2または請求項3に記載の方法。

【請求項 10】

哺乳類、魚類または鳥類に対して治療有効量のカチオン性脂質DNA複合体(CLCD)を含む第1の投与する物(administrator)；
哺乳類、魚類または鳥類に対して治療有効量のアジュバント含有またはアジュバント非含有ワクチンを含む第2の投与する物；および
指示書を含むキット。